



六字城

発行

真宗大谷派（東本願寺）天満別院
大阪市北区東天満一丁目八二六

電話 六三五一三三三五
代表者 輪番 長谷山法雄

新年の挨拶

真宗大谷派天満別院輪番

長谷山 法雄

明けましておめでとうございます。すこやかに新年をお迎
えのこととお慶び申し上げます。

皆様方には、平素より天満別院護持運営に多大なるご尽力
を賜り心より御礼申し上げます。

年賀状をいただく、元旦の挨拶に添えて、一年の計は元
旦にあり、という諺があるので、それにならって、一年の計
をたてる方がおられます。「私の計は、この一年、腹をたて
ないということです」と誓って見たが、元旦の午前中もたな
かったという人がいました。正親含英（おおぎがんえい）先
生が、沢山年賀状をいただいた中に、元旦に書かれた年賀状
があった。その内容が『観經のところに』紹介されています。
「せめて元旦の半日だけなりとも、心静かにありたいと思い

一月の法座・行事

- 一〜三日・修正会（午前八時）
四日・如信上人御祥月御命日（午前八時）
十二日・闍如上人御逮夜・常永代経（午後二時）
十三日・闍如上人御命日（午前八時）
十四日・同朋の会例会 講師 大阪教区第七組 長教寺 住職 稲垣 洋信 師（午後二時）
十五日・嚴如上人御祥月御命日（午後二時）
十九日・覚如上人御祥月御命日
二十四日・正信偈書写の会（午前十時） 定例法話 講師 大阪教区第十五組 西稱寺 住職 宮部 渡 師（午後一時半）
二十五日・法然上人御祥月御命日（午後二時）
二十七日・宗祖聖人御逮夜（午前八時）
二十八日・宗祖聖人御命日（午前八時）

◆お詫びと訂正

十二月号の六字城、「◆仏前結婚式」
において新郎の名前に誤りがありま
したのでお詫びし訂正いたします。

正しくは
尾関 大悟様
寺嶋 麗様 です。

本年もよろしく

お願い申し上げます

会 計	山 元	教 悟
列 座	出 原	大 乗
列 座	堀 河	実 誓
書 記	小 坂	昌 子
嘱 託	山 名	彰 英
用 務 員	矢 裂	隆 司
用 務 員	林	錦 芳

霊園・墓石



株式会社 太田石材店

本社 〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号
本店 〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目2番18
TEL 06-6930-5075 0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

きみよう
帰命ともうすは
にょらい ちよくめい
如来の勅命に

したがうこころなり

（法語カレンダーより）

ます。ところが、元旦の半日の間も、
欲しがる心がでてきます、人を責め
る心がでてまいります。うらやむ心
がでてまいります。せめて正月の一
日の半日だけでも、そういう心がな
いようにと思っても、責める心、欲
しがる心がでてまいります。その半
日さえも心静かでない、そんな時に、
ふとお念仏が出てまいりました」。

そのつぎに「私の口からお念仏が
でてきたことに驚きました」と書い
てあったそうです。私たちは念仏を
称えているが、口から念仏がでてき
たことに驚きません。煩惱でできた
身（煩惱具足の身）から念仏がでる。
あたりまえでなく驚くことです。今
年一年の歩みのなかで、このことを
あじわいながら歩みたいと思います。
本年も宜しくご教導の程お願いいた
します。

新年あけまして
おめでとうございます

天満別院責任役員
奥林 暁

現代は少子高齢化・人口減少がすす
み、宗教離れ、寺離れが進んでおり
ます。五年後の二〇二三年にお迎え
する宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・
立教開宗八百年慶讃法要に向けて、
宗祖親鸞聖人がお示しくくださったお
念佛の教えが一人でも多くの方に伝
わることが願われております。一方
我身を振りかえってみますと、「門松
は冥土の旅の一里塚、目出度くもあ
り、目出度くもなし」。これはあまり
にも有名な一休禅師の歌であります。
人生のたそがれ時を迎えているにも
かわらず、浮かれて世間なみの正
月の挨拶をしている私をたしなめる
厳しい言葉である。生死の問題が他
人事で、自己の問題になっていない。
おしかりの言葉として受けとめたい。

謹 賀 新 年

責任役員

院議会議員

奥林 暁	榊屋 義雄	谷 康司	鷗 鷗	辻澤 孝司	洲崎 善範	園原 信行	宮部 渡	宇野 善昭	八十島義郎	幸田 晴夫	井上 信夫	小糸 正洋	江村 勝友	西松 薫
------	-------	------	-----	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------

監 事

◆正信偈書写の会より

毎月二十四日午前十時より一階会
議室にて正信偈書写の会を行ってお
ります。書写用紙は別院で用意して
ありますので筆、墨、硯は各自でご
用意ください。

◆仏前結婚式について

別院では仏前結婚式を随時受け付
けております。寺院関係の人達ばか
りでなく、ご門徒の方々の挙式もご
遠慮なくお申込みください。



◆別院墓地のご案内

現在、天満別院では真宗のご門徒
の墓地使用者を募集しています。
冥加金、申請方法等、詳しくは別
院寺務所までご連絡ください。



尚、収骨等の儀式執行は別院職員
が行います。

平成三十年度 年回表

年 回 年回にあたる没年

一周年忌	平成二十九年
三回忌	平成二十八年
七回忌	平成二十四年
十三回忌	平成十八年
十七回忌	平成十四年
(二十三回忌)	平成八年
二十五回忌	平成六年
(二十七回忌)	平成四年
三十三回忌	昭和六十一年
(三十七回忌)	昭和五十七年
五十回忌	昭和四十四年
百回忌	大正八年

※二十三、二十七、三十七回忌につきま
しては、地域によってはお勤めされな
い場合もございます。
※年忌法要をお勤めになる際は、少し
早めにご連絡いただきますようお願い
いたします。ご相談等も寺務所までご
連絡ください。

日本仏教においては地蔵菩薩と同一の存在と解され、地蔵菩薩の化身ともされます。後に閻魔の本地とされる地蔵菩薩は、奈良時代には『地蔵十輪經』によつて伝来しましたが、現世利益優先の当時の世相のもとでは普及しなかったようです。平安時代になつて末法思想が蔓延するにしたがい、源信らによつて、平安初期には貴族、平安後期には一般民衆と広く布教されるようになり、鎌倉初期には『地蔵十王經』が生み出され、これにより閻魔の本地は地蔵菩薩であるとされ、閻魔王のみならず十王信仰も普及するようになったのです。親鸞聖人の時代は、ちょうどこの閻魔大王が流行していた時代でもあるのです。

お知らせ

◆修正会法要

一月一日～三日 午前八時より
法要終了後、輪番の年頭挨拶と法話
がございます。ご家族揃つて初参りに
別院へお参りください。

◆墓地の門の

開閉時間について

一月一日～三日まで
午前六時半より午後五時までとなつ
ております。お墓参りは開門時間内
にお願いいたします。お車でお越しの方
は、道路上は駐車違反となりますので、
別院講堂前、または南側別院境内にご
駐車いただきますようお願いいたしま
す。

◆新年互礼会について

一月二十一日（日）
時間 午後六時より
場所 太閤園淀川邸にて
会費 壹萬貳仟圓也

例年のごとく僧俗懇親の互礼会とい
たします。皆様多数のご参加をお待ち
しております。

◆定例法話

一月二十四日（水）
午後一時三十分より

大阪教区第十五組
西稱寺 住職
宮部 渡 師

法話終了後例年の如く門徒会婦人部
の方々が前日より準備された鏡餅によ
る接待があります。是非お誘い合わせ
御参拝ください。

言葉に力を

天満別院院議會議員
洲崎 善範

新年あけましておめでとうございま
す。

昨年はこの新年のあいさつの言葉を
どうするかを考えさせられました。
それは、一昨年の春に両親が慌ただし
くお浄土へと還つたからです。喪中欠
礼という習慣よりも、当たり前の死と
いうことから《新年のご挨拶をご遠慮
申し上げます》という言葉にしました
が、結局は言葉をすりかえただけでし
た。

政治家や評論家の報道を見ると、
言葉の力が、重みが弱く、軽くなつて
いるように思います。言葉が昔と代わつ
ていないなら、人間の重みが軽くなつ
てきたのでしょうか。

親鸞聖人の言葉『人いづくんぞ能く
鬼神に事えんや』からは、私は人間な
んだ！その存在こそ尊く、世間の価値
観に左右されない『いのち』の重みを感じ

じます。いのちが見失われ、人がモ
ノ化している今こそ、天満別院をは
じめ、お寺が言葉の力を、人として
の存在を取り戻す場としてあり続け
なければなりません。
本年もどうぞよろしくお願いいた
します。

新年のご挨拶

天満別院門徒会 会長
宇野 善昭

明けましておめでとうございます。
皆様お健やかに新しい年をお迎えに
なれましたこととお喜び申し上げます。
ます。本年も引き続き天満別院の行
事、活動にご協力下さいますようお
願い申し上げます。

皆様ご存知のとおり別院は大阪の
街中にあります。人の多い都会にあ
りながら人が集りにくいという問題
をかかえています。とりわけ地域の
方々との連係が大きなポイントかと
思われます。どのように対応すれば

門 徒 会

別院婦人部

墓地委員会

顧問	北川 正澄
会長	宇野 善昭
副会長	榊屋 義雄
副会長	井上 信夫
副会長	傍島 恭子
会計	八十島義郎
会計監査	西松 薫
会計監査	幸田眞須美
部長	幸田眞須美
副部長	傍島 恭子
副部長	林 綾子
副部長	佐藤 紘子
会計	村中 怜子
会計	根本 和子
委員長	八十島義郎
	谷 康司
	幸田 晴夫
	根本 卓
	松垣 吉彦

よいのか門徒会としても若い方の意見も伺ってみたいと思います。まずは別院で毎月開かれる定例法話、同朋の会に一人でも多くの方にお参りしていただけるようにご近所の方にお声かけをして下さい。別院は特別などころではなく、身近なところと感じていただけるように念じています。 一月一日は横に一本線を引くと一という字になり、始めと終りがあります。一日も同じ、朝目覚めたらお礼のご挨拶をして一日が始まり、夜お礼のご挨拶をして一日を終わります。一本の線を丸く書けば○になります。輪、和の心を持つて一日一日を大切に重ねてゆきたいと思います。 今年もどうかよろしくお願い申し上げます。最後にになりましたが皆様方のご健康とご多幸を念じあげます。 合掌	
新年おめでとうございます 天満別院門徒会 婦人部部長 幸田眞須美 今年は平成三十年です。去年は異常気象や突然の選挙など落ちつかない日々も多くあったので明るい話題を振り返ってみました。 思いかえせば二十七年前、平成三年七月二十七日石井廣ご輪番・北川門徒会長、傍島副会長と婦人部四十四人集ってキャッスルホテルの喫茶を貸切り、お食事をして総会をし、婦人会が発会しました。 平成十二年十月七日、八日には、寺岡専念ご輪番をはじめ來迎寺住職寺林惇先生を先頭にお坊守さんにもお願いし、門徒会北川会長を先頭に婦人会の方々と協力で落慶法要を行いました。 北川さん宅よりお寺さん・お稚児さん・門徒男子・婦人部の方々がお寺まで歩いて御門首様、坊守様をお	迎えました。 お稚児さん募集のポスターに、我方の小学生男子一年生と三年生の孫と小坂さんの小学校三年生の娘さん三人がモデルになり写真が載ったり、主人と一緒におかみそりをして頂き、私方では、とても嬉しい落慶法要となりました。 また、平成二十七年十月二日、三日、四日は宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要がありました。最終日には、御門首が帰敬式（おかみそり）を執行して頂いたり、御親修して下さい、とても有難かったです。夜は帝国ホテルで祝賀会を行い、たくさんの方々に集って頂き、とても嬉しかったです。 毎月第二日曜日午後より同朋の会例会、二十四日は午前十時より正信偈書写の会・定例法話に午後おまいりし、その後先生方のお話があります。毎月の六字城をごらんくださいます。たくさんおまいりして下さい。よろしくお願いします。

「和讃のおはなし」 真宗大谷派 鍵役 宣心院 大谷 暢文 『現世利益和讃（九）』 南無阿弥陀佛をとらふれば 炎魔法王尊敬す 五道の冥官みなともに よるひるつねにまもるなり （南無阿弥陀佛とお念仏を称えるならば、閻魔大王はもちろんのこと、その下で働く地獄の役人たちも尊敬して下さい、夜昼常に護ってくださいなのです。）	このご和讃は、念仏者を地獄の閻魔大王までもが尊敬・護持する利益を詠ったものです。典拠となる経典は、『金光明経』『鬼神品』で、そこには「釈提桓因（帝釈天）、及び、日月天、閻魔羅王、風水諸神、常に世を護り、昼夜を離れず」とあります。 ご和讃では、閻魔の「閻」が「炎」となっていますが、通常は「閻魔」とすることが多いので、ここでは「閻魔」とします。閻魔は、サンスクリット語やパーリ語のヤマの音訳で、ヤマラージャ（ラージャは王の意）のことです。音訳では閻魔羅闍、意訳では閻魔大王、略して閻羅王、閻ともいいますが、私たちに馴染み深いのは閻魔大王でしょう。ヤマ（閻魔）は、縛、雙世、雙王、静息、遮止、平等などと和訳されます。「縛」は罪人を捕縛する意、「雙世」は	彼が世中、常に苦楽の二つの報いを受ける意、「雙王」は兄妹一对で二人並ぶたる王の意、また「平等」は罪人を平等に裁くとの意からこれらの和訳があります。 閻魔は、中国に伝わると、道教における冥界・泰山地獄の主である泰山府君と共に冥界の王であるとされ、閻魔王、あるいは閻羅王として地獄の主とされるようになりました。やがて晩唐代に撰述された偽経である『閻羅王授記四衆逆修生七往生浄土経』により十王信仰と結び付けられ、地獄の裁判官の一人でありその中心的存在として、泰山王とともに、人が死ぬと裁くという役割を担い、信仰の対象となりました。現在よく知られる唐の官人風の衣（道服）を纏った姿は、ここで成立したようです。
---	--	--